



国内レポート

若い歯科医師のためのオーラルフィジシャン育成セミナー

次世代を担う若い歯科医師や 歯科衛生士に夢と希望を

幡野紘樹

山形県勤務 日吉歯科診療所
連絡先：〒998-0037 山形県酒田市日吉町2-1-16

キーワード：オーラルフィジシャン, EBD, MTM

8月25日(土)、26日(日)の2日間、日吉歯科診療所(山形県酒田市)にて表記セミナーが開催された。残暑厳しいなか、全国から60名の若手歯科医師や学生が参加した。

本セミナーは日吉歯科の30年の取り組みをもとに、“真の患者利益とは何か”という歯科医療の本質に目を向け、次世代の歯科医療を担う若い歯科医師や歯科衛生士に夢や希望をもってこの仕事に取り組んでもらうことを目的としている。今回は、

- ①熊谷崇「世界の歯科医療の常識と、日本の歯科医療の問題点」
 - ②加藤大明、市野孝昌、海野陽子、幡野紘樹「歯科医療における常識的な診療の流れ、EBDとは?(日吉歯科の勤務医の取り組み)」
 - ③太田貴志、斎藤直之、小口直生、仲川隆之「診療室の成長と発展」
 - ④熊谷直大、加藤有美「オーラルフィジシャンと専門医の連携と役割」
- の4つのパートで行われた。この2日間の参加者にとって明るい未来へ

の扉になれば本望である。

以下に、今回参加された3名の感想を記載するが、それ以外の参加者の感想もSAT事務局のホームページ(<http://www.sat-iso.net>)に掲載されているので、併せてご覧いただければ幸いである。また、本セミナーは16期が2013年3月16日(土)、17日(日)、17期が8月24日(土)、25日(日)に開催を予定しているため、多くの若手歯科医師に参加していただきたいと願っている。

Reporter's voice 1

あるべき歯科医療、専門医療を体感



嘉村康彦

(福岡県勤務・つきやま歯科医院)

私の勤務するつきやま歯科医院では真の患者利益を「一生、健全な自分の歯で食べて、話せて、笑い、それによりQOLが向上すること」と定義している。今回のセミナーで口腔内および歯に対する価値観を本来あるべきものに高め、それを維持することの重要性を改めて感じた。う蝕を削り、充填し、現状では再発することが眼前にみえている患者にも同様の処置を行うと、当然悪い意味で予想どおりの結果となる。それを仕方がないと考えてしまうことは、歯科医師の歯に対する価値観の崩壊である。それは患者の価値観の崩壊にもつながっている。熊谷崇先生のひと言ひと言は現在の歯科医療の問題を浮き彫りにし、われわれのような新米歯科医師は誰しも必ず心に突き刺さるものがあつたと思われる。

米国補綴専門医の熊谷直大先生の講演も非常に印象的で、徹底した米国の専門医教育の実際、それを物語る先生の自信に溢れる講演を聴いて、やはり自分も留学し、専門医療を学ぶ決意を固めた。歯科衛生士、総合診療医(GP)、専門医とのあるべき連携は今後大きな課題となる。われわれ若い歯科医師は日本独特の診療スタイルにとらわれず、広い視野をもち、見極める力を養うことが必須であると改めて感じた。

私の勤務するつきやま歯科医院では真の患者利益を「一生、健全な自分の歯で食べて、話せて、笑い、それによりQOLが向上すること」と定義している。今回のセミナーで口腔内および歯に対する価値観を本来あるべきものに高め、それを維持することの重要性を改めて感じた。う蝕を削り、充填し、現状では再発することが眼前にみえている患者にも同様の処置を行うと、当然悪い

Reporter's voice 2

日本の歯科医療を世界基準にするために必要なこと



丸尾勝一郎

(ハーバード大学歯学部・ITI スカラー：留学中)

残暑厳しい山形県酒田市の日吉歯科診療所で「15期：若い歯科医師のためのオーラルフィジシャン育成セミナー」が開催され、会場も若手歯科医師の熱気で包まれた。濃密な2日間すべてを限られたなかで紹介することは不可能であるが、僭越ながら私なりにこのセミナーを解釈してみたい。

熊谷崇先生が提案されている「あるべき歯科医療」を実現するためには、喪失された歯科への価値観を患者教育により新たに創造し、歯科医師がその要望に対して真摯に応えることが必要である。すなわち、今までの“医療制度から逆算した医療”から脱却し、“患者の真の利益から逆算した医療”へとシフトすることである。そして、その要望に対して真摯に応えるために歯科医師は、世界基準の歯科医療を学ぶ必要がある。そのためには、今後若い歯科医師が積極的に海外の歯科医療に触れ、それを帰国して実践することが重要である。さらに特筆すべき点は、患者のみならず、かかわるすべてのコ・デンタルスタッフが働きがいを得られるシステムがすでに構築されている点である。留学を控えた自分にとって、目的意識がより明確になったと同時に、大学や学会など、歯科教育や医療制度のあり方にも変革が必要であると感じた。

最後に、セミナーの準備をしてくださった日吉歯科をはじめとする多くの関係者の皆様に、この場を借りて心より感謝申し上げます。



山形県酒田市の田園風景。

Reporter's voice 3

勇気をいただける講義が精神的支えに



西山綾乃

(大阪府・歯の花クリニック／兵庫県・伊藤歯科クリニック)

私は、2012年4月よりメディカルトリートメントモデル(MTM)に取り組む2つの歯科医院に勤務させていただいている。2つの異なる歯科医院でのMTMへの取り組みのなかで深く感じたのは、効率よくその仕組みやメリットを取り入れることや、MTMをやり通すことの難しさである。とくに、正しいことをしていきたいのに、事がうまく回らないということへのフラストレーションや、多くの課題を抱え込み不安に押しつぶされるストレスといったものをどう処理していくかが大変悩ましかった。

そのようななか、聖地ともいえる日吉歯科診療所において、熊谷先生をはじめとした先輩から2日間にわたり勇気をいただける講義を拝聴し、同年代の若手歯科医師たちの着実な歩みを目の当たりにしたことは大きな精神的支えとなった。人びとに提供されるべき歯科医療をきちんと提供していくことが、MTMの体現であり、オーラルフィジシャンの務めでもあると再確認し、信念を貫く大切さを学んだ。

オーラルフィジシャンでありたいと思う歯科医師にとって、現状の日本のシステムは悩みの種である。しかし、整備の不十分な既存のシステムに、理想の医療が潰されてよいものだろうか？ 若い歯科医師たちこそ、次世代の歯科医療を実現するために不当なシステムと戦っていくべきであろう。



憧れの熊谷先生はとてもフレンドリーで一緒に写真にも写っていただくことができた。